

世界の今を知る



VOL. 28

シリア難民の子どもたちを学校へ! 安達三千代(認定NPO法人IVY)

▲カウログスク難民キャンプ



トルコ シリア アルビル バグダッド イラク イラン クルド人自治区

今でこそクルド人自治区は「イスラム国」の脅威が迫っており、米軍の空爆まで始まり、緊張もピークですが、昨年の10月頃のアル

一方で、難民が全員、難民キャンプに入るわけではありません。クルドの場合、キャンプとノンキャンプの比率は4対6です。キャンプ外に暮らす人は仕事を求めて都市に移動し、アパートを借りたり空地に小屋を建て細々とした稼ぎで暮らしています。しかし、物価は日本並みに高く、家賃と食べるだけで精いっぱいです。(写真②) 空き地で暮らす難民もいる)

なぜイラク? クルド人自治区?

さて、IVYの難民支援ですが、震災支援で得た知見を世界の緊急援助の分野で生かそうというムードが震災から2年が過ぎた昨年春くらいから団体内で芽生え、4月にジャバン・プラットフォームに加盟。ハイチ、南スーダン、シリアが候補に挙がりましたが、やはり当時、難民数が100万人を超えたシリア難民をということになり、周辺5か国の中でも特に支援の遅れていたイラク北部のクルド人自治区での支援を決めました。

さて、IVYの難民支援ですが、震災支援で得た知見を世界の緊急援助の分野で生かそうというムードが震災から2年が過ぎた昨年春くらいから団体内で芽生え、4月にジャバン・プラットフォームに加盟。ハイチ、南スーダン、シリアが候補に挙がりましたが、やはり当時、難民数が100万人を超えたシリア難民をということになり、周辺5か国の中でも特に支援の遅れていたイラク北部のクルド人自治区での支援を決めました。

ビルは第2のドバイとまで言われるほど経済が発展し、比較的治安も安定していたのです。IVYの運営方針は「自立支援」。そのため、難民キャンプではなく、あえて難しいと言われる都市難民に焦点を絞りました。そしてまずアルビル市内でも家賃の安い3つの地区からさらに貧困世帯を抽出し、12月に約350世帯にストーブや灯油を配りました。



②



①



④



③



⑤

★IVYへの寄付はこちら★
郵便振替 02290-2-85967
加入者名: IVY
※HPからクレジットカードでの寄付もできます!

部にすぎません。シリアに帰れる日まで、せめて小学校くらい通わせてあげたい!ぜひご寄付をお寄せください。(写真④) 中央、現地駐在の西村梨沙)

今、アルビルには、「イスラム国」の迫害を逃れた少数民族のヤジディ教徒やキリスト教徒が避難しています。これらの方々への緊急支援も検討しています。

イラクの国内避難民への支援も計画中国、アルビルには、「イスラム国」の迫害を逃れた少数民族のヤジディ教徒やキリスト教徒が避難しています。これらの方々への緊急支援も検討しています。

筆者プロフィール:
◆安達三千代◆
認定NPO法人IVY(アイビー)事務局長・理事 徳島県出身。同志社大卒。85年から山形県在住。94年からカンボジア担当となり、農村の貧困削減に取り組み20年。昨年10月、初めてイラクのクルド人自治区に足を踏み入れた。(写真⑤)

◆安達三千代◆
認定NPO法人IVY(アイビー)事務局長・理事 徳島県出身。同志社大卒。85年から山形県在住。94年からカンボジア担当となり、農村の貧困削減に取り組み20年。昨年10月、初めてイラクのクルド人自治区に足を踏み入れた。(写真⑤)

はじめまして。IVY(アイビー)の安達です。IVYは、東北のNGOで、カンボジアや東日本大震災での支援活動をはじめ、現在はイラク北部のクルド人自治区で活動しています。FUNNさんとは外務省のNGO相談員のつながりで2年前の「地球市民どんたく」に出させていただきました。遠く離れた東北での震災に心を寄せたり、支援に尽力されている多くの方々に出会い、刺激と感銘を受けたのを覚えています。

震災と同じ2011年3月に始まったシリア危機
さて、今回は「東北」よりもさらに遠い「シリア、イラク、クルド」の話です。シリアの今の混乱が、震災と同じ2011年3月に始まったことはあまり知られていません。

きっかけは、首都ダマスカスの南に位置するダルアール県で「政権打倒」と壁に落書きした少年約30人が逮捕されたことから、保釈を求めて起きたデモが発端でした。デモはやがて国中に飛び火し、6月末には「シリア国民連合」をはじめ政治同盟が次々と結成され、9月には「自由シリア軍」などの軍事勢力が台頭。国際社会も欧米側とロシア側にまっぴたつに分かれ、双方が武器を与えたことから、民主化は脇へ追いやられ、泥沼の戦場になってしまっています。

しかし、他国に入れてもらうのも、難民キャンプに保護してもらうのも容易ではありません。IVYが支援活動を行っているイラクのクルド人自治区では、シリアとの国境に検問所が設けられ、情勢に依りて開けたり閉じたりしています。やっと入国できても次は難民登録の長い列に並び、登録して難民キャンプに入ることができ、食料やテント等の保護が受けられるのです。(写真①)カウログスク難民キャンプ)

表1「国外避難民数」

レバノン	1,154,955人
トルコ	822,128人
ヨルダン	609,692人
イラク	218,040人
エジプト	138,735人
その他	23,367人
合計	2,966,917人

出典: UNHCR Aug17,2014

周辺国に逃れる難民
戦闘が激化するに伴い、国外に避難する人の数は2年後の13年4月には100万人に達し、現在は300万人もの人たちがレバノン、トルコ、ヨルダン、イラク、エジプトなど周辺国へ避難し、国内での避難者数も650万人と国民の半分が難民という大変な事態です。(出典: http://data.unhcr.org/syrianrefugees/regional.php)